

12 森のドライフラワー

プログラムの目的 森林の草花について理解を深める

プログラムについて

晩秋に採取した草本を見分け、観察する活動を通じて草花の種類を知ったり、季節と共に変化する草花の姿を実感させる。室内でできるプログラムなので、教材を一度準備すれば、雨天時対応用プログラムとして利用できる。

実施時期 教材があれば通年で実施可能

実施場所 研修室などの室内

必要物品 立ち枯れている草本（種類数は10種類前後）、新聞紙やビニールシート、ビニール袋、生育しているときの各草本の写真又は植物図鑑

教材研究と準備

初
動
段
階

立ち枯れている草花の採取
種子の採取
仕分けと保管

内
容
づ
く
り

参加者数に合わせた提示サンプルづくり
種子のサンプルづくり
ヒントのための資料づくり
生育時の写真や図鑑の準備
ビニールシート又は新聞紙の準備

最
終
段
階

会場準備
最終打ち合せ・リハーサル



立ち枯れている草花（オオアワダチソウ）



採取して保管しておく

展開の概要

問題の把握

- ・森林にある草花にはどんなものがあるか
- ・森林の草花は秋になるとどうなるか

確かめる

- ・同じ種類の草花を集める
- ・名前を調べて名札をつける
- ・タネを調べる

考える

- ・どんな草花があったか
- ・枯れる前の様子とどこが違うか
- ・枯れた草はこの後どうなるのか
- ・多年草と一年草の違い

注意事項

- ・教材研究と準備に時間をかける。
- ・巡視して個別指導を十分に行う。

1 教材と資料の準備

秋に森林で立ち枯れた草本を採取する（10種類前後）。

同じものどうし仕分けをして保管しておく。また、種子があるものは取り出して別に保管しておく。

活動前に、種子のサンプル、各草本が枯れる前の様子をヒントとしてまとめた資料、植物図鑑、名札用の紙を参加者数に合わせて適宜準備する。

班に配付する枯れ草のサンプルを準備する（各班に10種類前後をひとまとめにしておく）。

2 活動の進め方

森林にはどんな草花があるかたずねる。また、草花は秋になるとどうなるかたずねる。

森林の草花のうちいくつかは、秋になって枯れても、ドライフラワーのように残っているものがあることを伝える。

今日の活動では、ドライフラワーを使って、草花の観察をすることを伝える。

ドライフラワーのサンプル、ヒントの資料、図鑑、名札の紙を配付する。

サンプルの中に同じものが入っていないか確かめさせる。

ヒントや図鑑などを見ながら、名前を考えさせ、わかったら名札に書いてサンプルにつけさせる。

巡視して個別指導を行う。



森林で立ち枯れた草を採取し、仕分けして保管しておく



種子のあるものは種子だけ別に集めておく

種子をびんに詰めたサンプルや図鑑、ヒントを書いた資料を準備する



オオアワダチソウ



オオイタドリ



オオマツヨイグサ



サンプル、ヒント資料、名札を配付する

活動の概要

名前がわかってきたら、びんに入った種子のサンプルを各班に配付する。

これらのびんの種子はそれぞれのドライフラワーのものか考えさせる。

- ・びんの種子の形をよく見る
- ・ドライフラワーに種子の残りはついていないか調べる
- ・似ている形の種子を見つけて名前をはっきりさせる
- ・種子には、綿毛のあるもの、翼のついたもの、粒のものなど色々な形がある

サンプルによっては、種子が得られなかったり、取り出しにくいものもあるので、事前の教材研究の段階で、それを提示するか決めておく。

オオイタドリの種子には小さな翼があり、コウゾリナ、オオアワダチソウ、エゾゴマナは綿毛、オオマツヨイグサは粒状の種子である。

これらの種子の散布のされ方などに触れても良い。また、種子を飛ばす実験をしても良い。

3 まとめ

今日の活動で観察したドライフラワーにはどんなものがあつたか。

何種類のドライフラワーの名前がわかつたか。

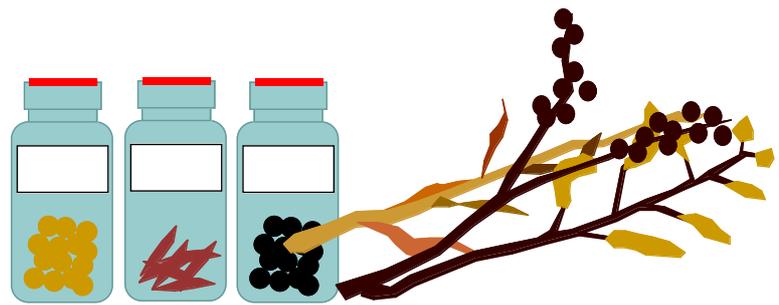
種子の名前がわかつたものは何か。

このドライフラワーはこの後どうなるのだろうか。

これらの草花は、地下の部分が生きていて、また来年芽を出してくる。

枯れている部分は分解されて栄養になる。

教材について



びんに入った種子はどのドライフラワーのものか

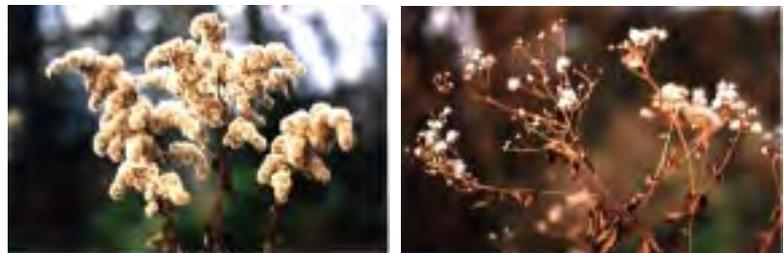
種子が得られるサンプルの例



オオイタドリ

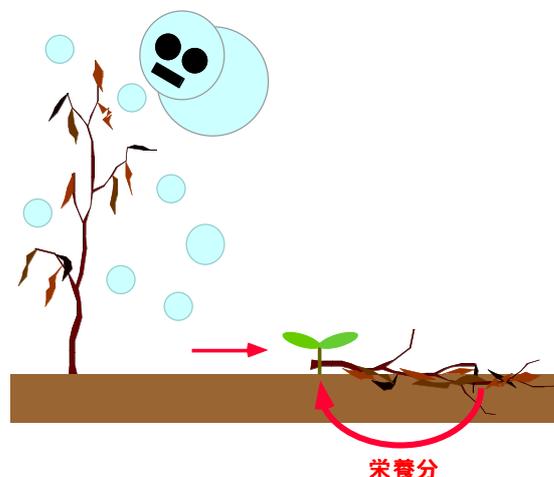
オオマツヨイグサ

コウゾリナ



オオアワダチソウ

エゾゴマナ



地面の上が枯れても下の部分は生きている
枯れた部分は分解されてまた、栄養分になる